

第9部

インフラ・住宅・環境



第1章 道路・運輸

- 162 道路(道路実延長と道路舗装率)
- 163 鉄道
- 164 バス
- 165 公共交通機関におけるバリアフリー化



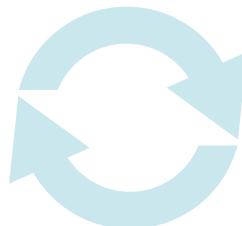
第2章 住宅

- 166 住宅の種類
- 167 1住宅当たり居住室数
- 168 1住宅当たり延べ面積(持ち家/借家)
- 169 着工新設住宅数
- 170 空き家数



第3章 環境

- 171 都市公園
- 172 自然公園利用者数
- 173 公共下水道の普及率
- 174 ごみ排出量
- 175 ごみのリサイクル率
- 176 最終エネルギー消費量
- 177 再生可能エネルギーの導入実績
- 179 奈良県の気候の変化



道路(道路実延長と道路舗装率)

道路実延長12,815.6km

CHECK 2023(R5)年3月31日現在の道路実延長は12,815.6kmとなっています。道路改良率は48.9%で全国45位となっています。

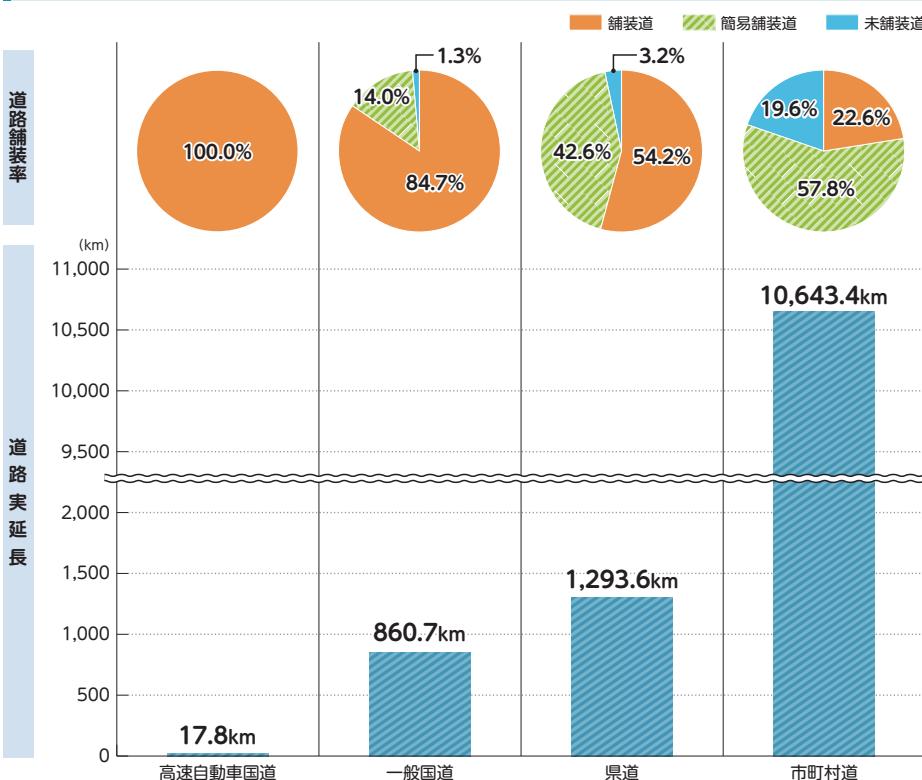
道路実延長の内訳は高速道路が17.8km、一般国道が860.7km、県道が1,293.6km、市町村道が10,643.4kmとなっています。このうち高速道路実延長は全国最下位となっています。

道路舗装率(簡易舗装を含む)は、高速道路は100%、一般国道は98.7%、県道は96.8%、市町村道は80.4%となっています。

- 道路改良率**…道路の整備状況を示す指標で、道路の実延長のうち、幅員、路面等の構造について道路構造令の技術的基準に適合し、自動車のすれ違い走行が可能なように改良された割合。高速道路・一般国道・県道は車道幅員5.5m以上の道路、市町村道は5.5m未満を含む。
- 道路舗装率(簡易舗装を含む)**…(舗装道+簡易舗装道)÷道路実延長×100%

道路実延長と道路舗装率(2023(R5)年3月31日現在)

資料: 国土交通省「道路統計年報2024」



鉄道

JRの1日平均乗車人員：総数 7万9,776人

近鉄の年間乗車人員：総数 1億2,445万人

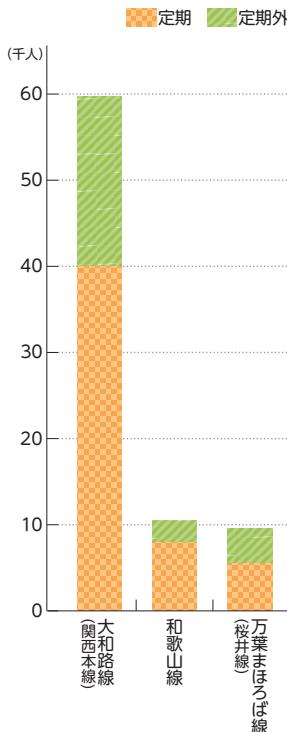
CHECK 2023(R5)年度のJR輸送実績は、1日平均乗車人員の総数が7万9,776人で、前年度と比べ4.5%の増加、近鉄輸送実績は、年間の乗車人員総数が1億2,445万人で、前年度と比べて3.8%の増加となっています。

JRの輸送実績を1日平均乗車人員で路線別にみると、大和路線(関西本線)が5万9,645人で全体の74.8%、和歌山線は10,532人、万葉まほろば線(桜井線)は9,599人となっています。

近鉄の輸送実績を年間の乗車人員で路線別にみると、奈良線が4,956万人、大阪線は2,436万人、橿原線は1,306万人、生駒線は735万人、南大阪線は722万人、京都線は675万人、けいはんな線は561万人となっています。

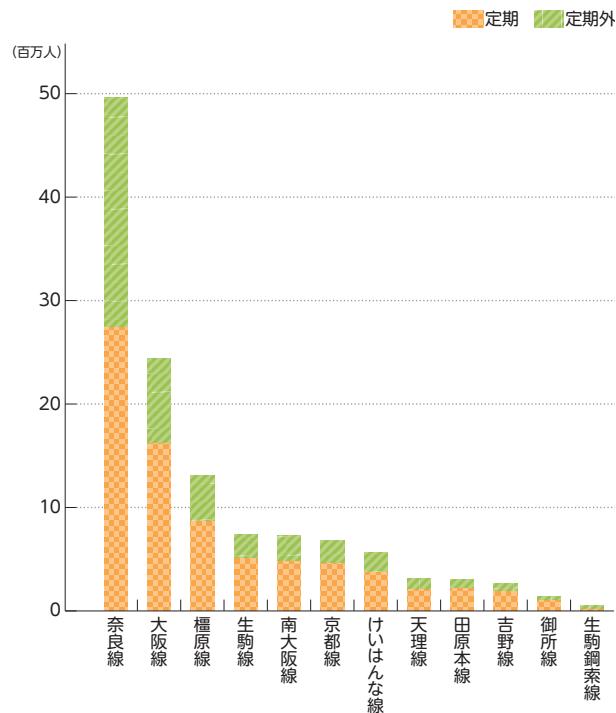
**JR路線別乗車人員
(1日平均: 2023(R5)年度)**

資料: 西日本旅客鉄道株式会社



近鉄路線別乗車人員(年間:2023(R5)年度)

資料: 近畿日本鉄道株式会社





バス

奈良交通バスの輸送人員 : 4,676万8千人
奈良交通バス実車走行距離 : 1,576万8千km

CHECK 2024(R6)年度における奈良交通乗合バスの輸送人員実績は、4,676万8千人で、前年度と比べて1.9%の増加、実車走行距離は1,576万8千kmで、前年度と比べて2.1%の減少となっています。

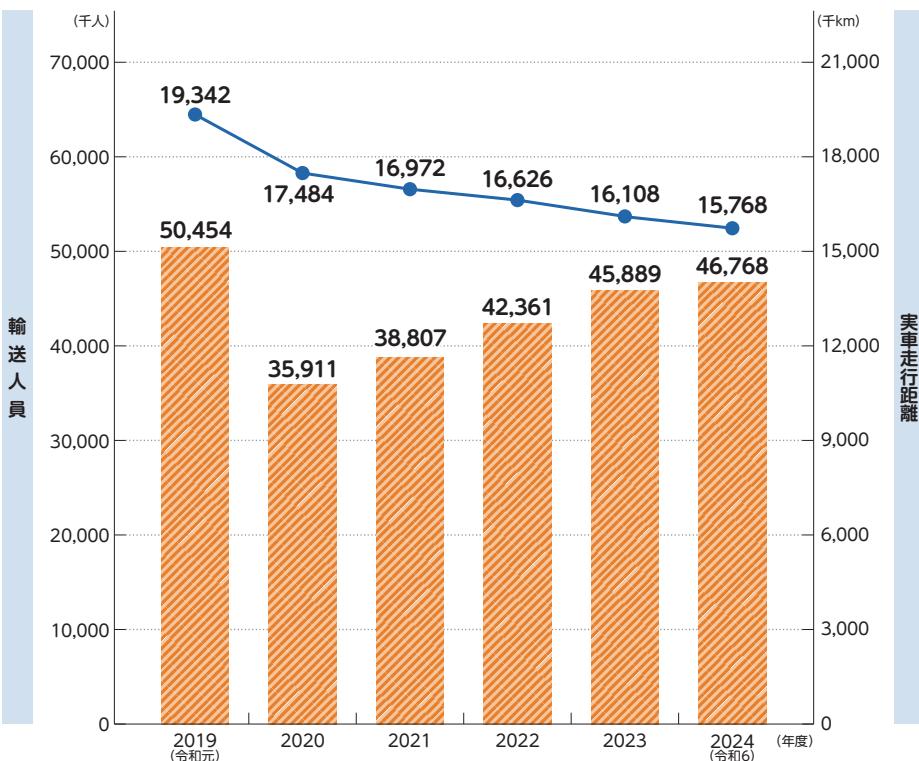
2024(R6)年度の奈良交通乗合バスの輸送人員実績は、2019(R1)年度の5,045万4千人と比べて、7.3%の減少となっています。また、2024(R6)年度の実車走行距離は、2019(R1)年度の1,934万2千kmと比べて18.5%の減少となっています。

※ 乗合バスのうち、定期観光バス、高速バス、空港リムジンバスに係る実績は含まない。また、実績は奈良運輸支局管内のもの。

奈良交通乗合バス輸送実績の推移

資料: 奈良交通株式会社

■ 輸送人員 ● 実車走行距離(右目盛)



公共交通機関におけるバリアフリー化

鉄道駅の段差解消率は87.7%※1

ノンステップバスの導入率は76.6%

CHECK 2023(R5)年度の県内鉄道駅の段差解消率は、87.7%で全国の93.9%を下回っていますが、引き続き段差解消に向け事業を進めています。

2023(R5)年度のノンステップバスの導入率は、前年度と比較して1.9ポイント増加し、全国の70.5%を上回っています。

※1 直近の1日当たりの平均利用者数を基に対象駅を算出した値。

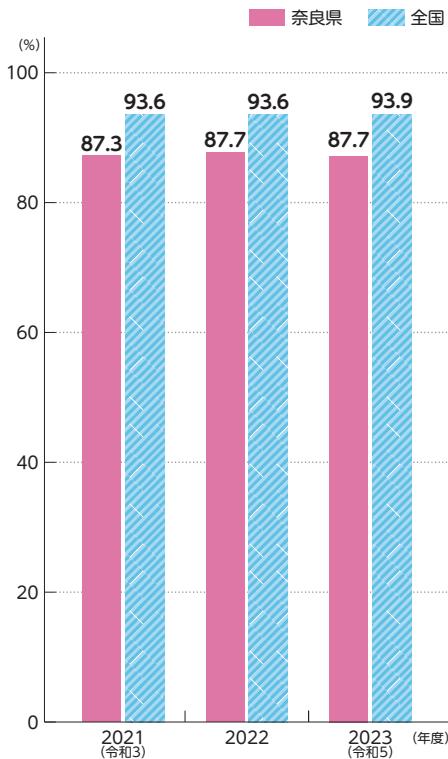
(コロナ影響前の2019(R1)年度時点の平均利用者数を基に対象駅を算出した値は82.8%)

※2 2021(R3)年度より段差解消率の算定方法が見直され、これまでの対象駅である「1日当たりの平均利用者数が3千人以上の駅」に「市町村が定めるバリアフリー基本構想において生活関連施設に位置付けられている2千人以上3千人未満の駅」を追加。

※3 ノンステップバスの導入率の値は、乗合バス対象車両数比。

鉄道駅の段差解消率の推移

資料：国土交通省、県リニア・地域交通課



ノンステップバスの導入率の推移

資料：国土交通省、県リニア・地域交通課

